



令和2年10月

広報あづみの

安曇野市制施行 15 周年記念号



寄り添い、支え合い、乗り越えよう

常念岳から望むご来光

CONTENTS

●市長・議長あいさつ	2
●安曇野の四季	3
●15年のあゆみ	4
●キラリ☆安曇野人インタビュー	10
●鼎談「都市から地方へ」	14

15

AZUMINO CITY 15th ANNIVERSARY 2020

市制施行 15 周年 ごあいさつ



安曇野市長
宮澤 宗弘

未来へつなぐ田園産業都市

安曇野市は本年 10 月、市制施行 15 周年の節目の年を迎えました。市政発展にご理解とご尽力いただきました市民の皆さま、関係する全ての皆さま方に心より敬意と感謝を申し上げます。

15 年を振り返りますと、旧町村の 5 つの流れが「より確かな大河の流れ」になるよう、本庁舎や交流学習センター、こども園などの整備をはじめ、土地利用制度の一元化、安曇野 IC への名称変更、信州安曇野ハーフマラソンの開催など、市の一体感醸成に向け、市民の皆さまと共に着実なまちづくりを進めてまいりました。今般は、新型コロナウイルス感染症の影響により、かつてない難局に直面している状況です。市民の皆さまの生命と暮らしを守り、そして事業者の皆さまを支え、雇用の安定を図るため、各種施策を実施してまいります。

先人のたゆまぬ努力により築かれた安曇野の恵まれた自然環境や伝統文化を後世に引き継ぐためにも、15 周年を契機とし、「北アルプスに生まれ 共に響き合う 田園産業都市 安曇野」のさらなる実現に向け邁進してまいります。そして、このコロナ禍においても、共に支え合い、地域資源を生かした活力あるまちづくりを目指してまいります。引き続き、皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

自主自立のまちづくりのために

平成の大合併により生まれた安曇野市が 15 周年を迎えることができましたことは、市民の皆さまをはじめ、関係各位のお力添えの賜物と、心から感謝申し上げます。

この 15 年を振り返ってみますと、安曇野市では、融和や一体感の醸成を図るため、それぞれの地域の歴史、文化、伝統を尊重するとともに、特徴を生かしながら、魅力あるまちづくりに取り組んでまいりました。

安曇野市議会においては、市民の皆さまに開かれた議会、市民参加を推進する議会の実現を目指して議会基本条例を制定し、議員定数の削減をはじめ、さまざまな議会改革を推進してまいりました。

これからも、安曇野市議会は市制 15 年の歩みを大切に、市民の皆さまに信頼され、市民と協働する議会を目指し、不断の議会改革を重ねてまいります。市民の皆さまの付託に全力で応えていくため、議員一同、より一層の努力をいたす所存であります。

安曇野市議会議長
召田 義人

春



下鳥羽・拾ヶ堰沿いの桜並木



▲ 国営アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区



旧国鉄篠ノ井線廃線敷の漆久保トンネル ▶



長峰山から望む安曇平



木々の緑あふれる蓼川



中房溪谷の滝と紅葉



等々力橋から続く一本道

秋



穂高神社の御船祭

安曇野の四季

安曇野インスタグラムフォトコンテスト入賞作品より

SNS により広く安曇野の魅力を募集・発信している写真コンテスト。皆さんの安曇野への愛が詰まっています。(表紙、3 頁写真)

<https://www.instagram.com/visitazumino/>



御宝田遊水池から望む北アルプス

15年のあゆみ

平成17年～27年

2005～2015

安曇野市誕生～市制施行10周年

平成17年10月1日に旧5町村が合併し、安曇野市が誕生。初代市長には平林伊三郎氏、第2代市長に宮澤宗弘氏が選ばれました。「5つの流れをひとつに」を合言葉に、施設や組織の整備が進められ、市民の一体感の醸成が図られました。市制施行10周年を迎えた平成27年には本庁舎が完成したほか、節目の年を祝う多彩な催しが開催されました。

平成17年

- 9月30日 安曇野市誕生カウントダウンイベント
- 10月1日 安曇野市発足
- 23日 初代市長に平林伊三郎氏
- 11月7日 安曇野市議会がスタート

平成18年

- 2月26日 合併記念式典開催
- 7月19日 記録的豪雨。明科地域の一部に避難勧告

平成19年

- 4月1日 市商工会発足。旧5町村の商工会が合併
- 11日 市夜間急病センターオープン
- 6月1日 市観光協会発足
- 7月25日 国道147号線高家バイパスが開通

平成20年

- 10月7日 市民活動センターくるりん広場オープン

平成21年

- 9月12日 穂高交流学习センター「みらい」が開館
- 10月11日 第2代市長に宮澤宗弘氏

平成22年

- 6月27日 第1回安曇野市民スポーツ祭を開催
- 11月27日 長野道梓川スマートIC開通

平成23年

- 2月11日 豊科交流学习センター「きぼう」が開館
- 15日 三郷トマト栽培施設の指定管理者が決定
- 4月1日 安曇野市の適正な土地利用に関する条例が施行
- 4日 NHK連続テレビ小説「おひさま」放映開始

平成24年

- 10月7日 豊科ICから安曇野ICに名称変更
- 12月19日 安曇野市平和都市宣言を制定

平成25年

- 4月28日 上松美香さんが「ふるさと観光大使」に就任
- 9月14日 明科支所・明科公民館全施設が利用開始
- 10月6日 宮澤宗弘市長が再選、議員定数25に
- 11月16日～ 第1回信州安曇野新そばと食の感謝祭開催

平成26年

- 2月14日～ 関東甲信越地方を中心に記録的豪雪
- 4月10日 榊中村屋が「ふるさと観光大使」に就任

平成27年

- 1月22日 安曇野市本庁舎・防災広場がしゅん工
- 3月29日 穂高会館の改修が完了
- 5月7日 市役所新本庁舎で業務開始
- 6月7日 第1回信州安曇野ハーフマラソン開催
- 9月8日 南安曇農業高等学校と連携協定締結
- 10月4日 市制施行10周年記念式典開催。市歌初披露



安曇野市誕生カウントダウンイベント



平林市長が初登庁 (H17)



宮澤市長が初登庁 (H21)



梓川スマートIC開通



安曇野ICに名称変更



ふるさと観光大使 上松美香さん・榊中村屋



市役所本庁舎が完成



本庁舎で業務開始



10周年記念式典



拾ヶ堰が世界かんがい施設遺産に登録



三郷サミットを市内で開催



東金市と災害時相互援助協定締結



リオパラ大会で樋口選手が入賞



「安曇野健康体操」完成



三郷公民館



穂高支所



堀金支所



豊科公民館

支所・公民館の各種工事が完了



環境省の名水選抜総選挙2部門で日本一



平成28年

2016

拾ヶ堰が世界かんがい施設遺産に登録

安曇野の農業を支える農業用水・拾ヶ堰。先人の偉業と地域の皆さんの維持管理が認められ、開削200年を迎えた節目の年に、世界かんがい施設遺産に登録されました。翌年には記念碑が建立され、郷土の発展に寄与してきた拾ヶ堰が国際的にも評価されたことを祝いました。

- 1月27日 国道403号新矢越トンネルが貫通
- 3月27日 豊科公民館耐震補強・大規模改修工事が完了
- 29日 環境省の名水選抜総選挙で「安曇野わさび田湧水群」が観光地・景観の2部門で日本一を獲得
- 4月1日 堀金支所および三郷公民館(4/11)の大規模改修工事が完了
- 26日 市水道事業第1次拡張が完了。水源がすべて地下水に
- 5月26日 第30回三郷・安曇野友好都市交流推進協議会(三郷サミット)を市内で開催
- 6月2日 アルプス保育園移転新築工事、穂高幼稚園大規模改修工事完了
- 14日 市が東京五輪・パラ大会「ホストタウン」に登録
- 18日 国営アルプスあづみの公園(堀金・穂高地区)「里山文化ゾーン」開園、同公園全面開園
- 26日 市歌による「安曇野健康体操」完成
- 7月27日 穂高支所を新築、4支所の整備事業が完了
- 9月14日 リオパラ大会・車イス陸上競技に樋口政幸選手(当時豊科在住)が出場し2種目で入賞
- 10月3日 日帰り温泉入浴施設「安曇野しゃくなげの湯」オープン
- 25日 千葉県東金市と災害時相互援助協定締結
- 11月1日 市入学準備金制度開始
- 8日 拾ヶ堰が世界かんがい施設遺産に登録



この年日本では

- ・熊本地震が発生
- ・北海道新幹線が開業
- ・ポケモンGO、ピコ太郎「PPAP」が世界的な人気
- ・流行語◎神ってる



「安曇平のお船祭り」が国選択無形民俗文化財に



穂高駅前広場改修工事が完了



文書館



「ゆりのき」



オリジナル婚姻届を作成

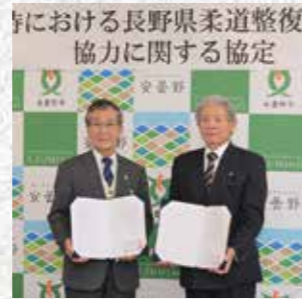
平成 29 年

2017

市自治基本条例を施行

自治の構成員である市民・市議会・市の役割を示し、協働によるまちづくりを推進するための基本事項を明記した「自治基本条例」を施行しました。全8章からなる条例には、市における自治の基本理念や市政運営の基本原則などが定められています。

- 1月20日 県内で初めて県柔道整復師会と災害時協力協定締結
- 27日 「安曇平のお船祭り」が国選択無形民俗文化財に選択
- 31日 市役所本庁舎が環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認定取得
- 2月7日 市区長会「コミュニティ・マニュアル」作成
- 3月9日 信州大学と包括的連携協定締結
- 28日 安曇野市空き家バンク開設
- 4月1日 自治基本条例施行
本庁舎内に母子・子育て相談窓口開設
- 5月1日 旧豊科支所跡地に豊科公民館駐車場の供用を開始
- 7月21日 穂高駅前広場改修工事が完了
- 27日～「ラウンドアバウトサミット in 安曇野」開催
- 8月1日 防災ラジオ運用開始
- 10月1日 宿泊型産後ケア・母乳相談等助成事業開始
- 15日 選挙権年齢が18歳へ引き下げ後、初の市長・市議会議員一般選挙。宮澤市長が3選。市議会議員は3人減の22議席に
- 11月8日 村上廣志副市長が任期満了により退任
- 15日 穂高墓地公園に市内初の合葬式墳墓が完成
- 12月20日 上長尾配水池の耐震化工事がしゅん工し、市内の拠点排水池の整備が完了



柔道整復師会と協定締結



信州大学と協定締結



母子・子育て相談窓口開設



市区長会「コミュニティ・マニュアル」作成



合葬式墳墓が完成



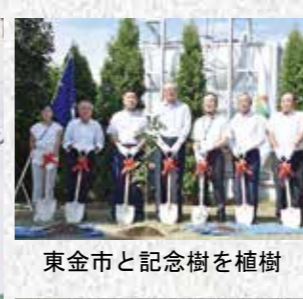
防災ラジオ運用開始



拠点排水池の整備が完了



有森裕子さんがスポーツ大使に就任



東金市と記念樹を植樹



穂高商業高校と協定締結



八面大王足湯がリニューアル



図書館キャラクター「ぼぼん」



明科廃寺発掘調査で古代瓦を発掘

平成 30 年

2018

「ゆりのき」、市文書館が開館

三郷交流学习センター「ゆりのき」が完成し、各地域の図書館を核とした交流学习施設の整備が完了しました。また、旧堀金公民館を活用した「市文書館」が開館し、歴史的・文化的価値のある公文書や古文書等の貴重な地域資料を保存し、利活用できる施設が完成しました。

- 1月1日 中山栄樹副市長が就任
- 3月10日 三郷交流学习センター「ゆりのき」が開館
- 30日 「北アルプス・安曇野ワインバレー特区」の認定を内閣府より受ける
- 4月1日 特別支援学校と小中学校「副学籍」による交流・共同学習スタート
国保健康ポイント制度スタート
オリジナル婚姻届の配布開始
- 2日 八面大王足湯移転リニューアル
- 5月8日～ 明科廃寺発掘調査で大量の古代瓦を発掘
- 24日 三郷北部認定こども園お披露目式を開催
- 6月1日 結婚記念証・出生記念証の配布開始
- 3日 有森裕子さんが「安曇野市スポーツ大使」に就任
- 28日～ 西日本を中心に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨が発生。広島県尾道市へ市職員を派遣
- 8月5日 シェアサイクル事業スタート
- 27日 東金市との友好都市締結記念樹を市役所敷地内に植樹
- 28日 黒沢川利水に関する協定を解消
- 9月21日 オーストリアカヌー選手と市内中学生が交流
- 10月1日 市文書館開館
- 9日 穂高商業高等学校と包括的連携協定締結
- 11月7日 図書館キャラクター名称が「ぼぼん」に決定

この年日本では
 ・大阪府・北海道で大地震、西日本で豪雨災害が発生
 ・平昌五輪で冬季最多のメダルを獲得
 ・築地市場が豊洲へ移転
 ・流行語◎そだねー



この年日本では
 ・九州北部豪雨が発生
 ・米トランプ大統領が就任
 ・上野動物園でシャンシャンが誕生
 ・流行語◎インスタ映え / 付度





信州安曇野田んぼアート

平成31年・令和元年 2019

長野県初開催！信州花フェスタ

第36回全国都市緑化信州フェア「信州花フェスタ 2019～北アルプスの贈りもの～」が信州スカイパークをメイン会場に中信8会場で開催され、信州ならではの花や緑の魅力を発信しました。色とりどりの花や緑で彩られた各会場では趣向を凝らした催しが行われ、延べ70万人を超える来場者で賑わいました。

- 3月1日 新ごみ処理施設建設工事着工
- 14日 「あづみん」の利用者が100万人を達成
- 19日 三郷文化公園体育館大規模改修工事が完了
- 22日 市内小学校の普通教室等へのエアコン設置工事が開始
- 26日 松本大学と自転車を活用した実証実験に関する連携協定締結
- 28日 しゃくなげの湯周辺整備事業が完了
- 4月1日 保養センター長峰荘を民間企業へ譲渡
市民活動サポートセンターが本庁舎に移転
- 25日～ 「信州花フェスタ2019」開幕
- 5月13日 たつみ認定こども園新園舎お披露目式を開催
- 22日 秋篠宮家の長女・眞子さまが全国都市緑化祭記念式典ご出席のため安曇野市を訪問
- 6月2日 信州安曇野田んぼアートを公開。テーマは大河ドラマ「いだてん」
- 7月28日 県消防ポンプ操法大会小型ポンプ操法の部で市消防団11分団が優勝
- 8月5日 国土交通省の「水資源功績者表彰」を受賞
- 10月1日 市内全域の水道料金を統一
- 12日～ 台風19号により県内各地に大きな被害。被災地へ職員を派遣
- 15日 市テレワークセンター開所
- 11月14日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の全国大会を市内で開催



- この年日本では
- ・元号が「令和」に
 - ・ラグビーW杯で日本が初の8強入り
 - ・消費税10%に
 - ・流行語©ONE TEAM (ワンチーム)



色とりどりの花で彩られた信州花フェスタの会場



三郷文化公園体育館大規模改修工事が完了



テレワークセンターが開所



国土交通大臣表彰「水資源功績者表彰」を受賞



長峰荘を譲渡



操法大会 県大会で優勝



台風19号により市内でも被害



新総合体育館外観イメージ



新ごみ処理施設完成予想図



災害対策本部を設置



池田町・松川村と災害時等相互応援協定を締結



「新型コロナウイルス」猛威振るう

新型コロナウイルスが世界中で大流行。東京2020オリンピック・パラリンピックの延期や緊急事態宣言の発令など、生活・経済に深刻な影響を及ぼしました。市内でもイベントの中止や小中学校の臨時休業など、異例の対応が相次ぎました。

- 1月21日 穂高南小学校長寿命化改良工事がしゅん工
- 31日 豊科南小学校の取り組みが環境大臣賞を受賞
- 2月14日 新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
- 18日 池田町と災害時等相互応援協定締結
- 3月10日 新総合体育館建設工事着工
- 27日 市内中学校の普通教室等へのエアコン設置工事が開始
- 明科南認定こども園新園舎完成
- 7月8日 大雨特別警報が発令。災害対策本部を設置。明科地域の一部に避難勧告発令
- 18日 市内でも新型コロナウイルスの感染を確認
- 31日 松川村と災害時等相互応援協定締結
- 8月4日 GIGAスクール構想に基づく学校内ネットワーク改修工事開始。9月には児童生徒1人1台の端末(第1期4,800台)を購入
- 30日 地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」の最適ルート帯(Aルート)が決定
- 10月1日 市制施行15周年を迎える。4日には記念式典を規模縮小により開催
- 12月～ 令和3年3月の本稼働に向け、新ごみ処理施設が試運転を開始(予定)

はるかな歴史を今に刻む 安曇野市誌 編さんに着手

市と市教育委員会では、市制施行15周年をひとつの契機として、安曇野市の歴史や民俗、自然、先人の業績などを総合的にまとめた『安曇野市誌』の編さんに着手します。

現在、安曇野市域の歴史などを調べる場合は、旧町村誌や郡誌などを重ね合わせて見なければなりません。また、旧町村誌の刊行年度が異なっていたり、記述の内容に大きな開きがあったりすることから、安曇野市全体が概観できる基本史料をまとめる必要があります。

全体構想案では、10年間で3巻から4巻の編さんを見込んでおり、令和7年度に1巻目となる民俗編の刊行を目指しています。市誌編さんの拠点は市文書館に置き、編さん計画や進捗管理は、市教育委員会や学識者らで構成する「市誌編さん委員会」が中心となって進めています。現在は、すでに調査・執筆を担う各分野の部会が立ち上げられ、本年度から「民俗部会」による調査がスタートします。

また、編さん委員会では、完成した市誌をホームページ上で公開することや小中学生向けの「子ども版」の刊行についても検討しています。

市の歴史や郷土の理解を深める機会の拡大を図ることで、幅広い世代の皆さんがふるさと安曇野への誇りを持ち、地域の連帯やさらなる文化の向上につながることを期待されています。



明科廃寺第5次発掘調査



「有明温泉本館」建物は移築され、現在は2階建ての「鐘の鳴る丘集会所」として利用。

AZUMINO CITY 15th ANNIVERSARY

キラリ☆安曇野人 スペシャルインタビュー

キラリと輝く安曇野の15人のアーティスト、アスリートの皆さんに聞きました。

Q1 困難にぶつかった時、どう乗り越えてきましたか？ **Q2** 安曇野への想いを教えてください。



画家 カミジョウ ミカ さん

●プロフィール 昭和51年12月生。穂高出身。先天性骨系統疾患のため入院していた病院のスタッフの顔をデフォルメし、独学で描き始める。作品テーマは「カラフルな空想世界と眠っているときにみる夢」。SOMPO パラリンアートカップ2017グランプリ受賞。

A1 自宅で23年程、体中痛みながらも絵を描き続けていますが、私の作品を見てクスッと笑って頂けるような楽しい作品づくりを心掛けています。コロナ禍で大変な時ですが、オモロ作品を作ってコロナをやっつけたいです！
A2 私は生まれも育ちも安曇野ですが14歳から数年間市外の病院に入院し、地元を離れていました。その時思った事は安曇野の風景が一番いい！です。



スポーツクライミング 中嶋 諒 さん

●プロフィール 平成16年3月生。穂高出身。松商学園在学。令和元年、長野県女子として初めての国体入賞。ジャパンツアーを勝ち抜き、ジャパンカップに出場。

A1 自分の弱みと強みを見直し、それでも強みを信じ、自信に満ちあふれた状態で乗り越えました。前向きな考え方をし、競技を楽しむことを一番考えて臨んでいます。
A2 自然がきれいで食材が新鮮でおいしい安曇野が好きです。今後もずっと空気がおいしく、観光客であふれるまちになってほしいです。

スノーボード・アルペン ひろや 戸田 大也 さん



●プロフィール 平成11年2月生。豊科出身。15歳で日本代表に選出され5年間世界を転戦。現在は中京大学在学。平成30年プロ初年度アジアチャンピオンシップ優勝。平成31年ユニバーシアードPGS8位入賞。

A1 今現在だけを考えず、先のステージに居る自分を想像して、ポジティブに今やるべきことを考え行動する。自分を信じる。
A2 大学で愛知に住んでいますが、安曇野市の空気と水のおいしさ、さらに北アルプスの景色が好きです。もっと子どもたちが雪とふれあい、ウィンタースポーツの人口が増えるような行事があればいいと思います。



美術家 山口 諒 さん

●プロフィール 平成2年5月生。堀金出身。エクセラン高等学校美術科卒業後、現在は東京藝術大学大学院に在籍。「アーツ・チャレンジ2016」(愛知)、「中之条ビエンナーレ2019」(群馬)等に参加。



A1 歩む足が止まった時、必ずあったのは芸術でした。アート、映画、音楽などは決してそれらが何かを変えてくれるわけではありませんが進む道を示してくれる時もありました。
A2 多くの芸術家にゆかりのある土地なので、今後は若手の芸術家にも記憶に残る場所になりつつ、たくさんの方が「アート」に触れてほしいと思います。



中之条ビエンナーレ2019
展示風景

Q1 困難をどう乗り越えましたか？

陸上競技 短距離 えみ 福田 笑未 さん

●プロフィール 平成17年5月生。堀金出身。堀金中学校陸上競技部に所属。令和元年、女子200mで全中陸上に出場。



A1 今できる最大限の練習をし、見つかった新たな反省点を改善し、次の大会で悔しさをぶつけ、少しでも自分の自己ベストを縮められる努力をします。
A2 鳥や虫の声、川の流れる音といった自然の音が聞こえる安曇野が好きです。練習風景でいつも目にする常念岳を見ると安心します。これからも、豊かな自然を保ってほしいです。

Q2 安曇野への想いを教えてください。



野球 だいき 寺嶋 大希 さん

●プロフィール 平成15年4月生。穂高出身。小3から穂高Jリーグで野球を始め、中3の時にトルシニア春季全国大会に出場。現在は名古屋市の愛工大名電高校の野球部2年生。1年生の春からベンチ入り。

A1 高校に入ってから、寮生活のことやケガとか調子を崩して野球がうまいかない時は、自分のことを応援してくれている人が、安曇野にたくさんいることを思い出して、期待に答えなければいけないんだという気持ちで練習に励みました。
A2 安曇野の自然や景色、リンゴやそば・わさびなどおいしいものがたくさんあるところ。もっと安曇野の良さを県外の人たちに知ってほしい、もっと人気のある、活気あふれるまちになってほしいです。

卓球 りょうま 手塚 峻馬 さん

●プロフィール 平成14年4月生。豊科出身。豊科スポーツ少年団に入団。松本市Jupic、高知県明德義塾中学校を経て、同高校に在学中。平成29年全中優勝、平成30年インターハイシングルスベスト4、令和元年インターハイダブルスベスト4、令和2年全国ジュニアシングルスベスト4



A1 親元を離れての生活と苦しい練習をしてきたことを自信にして、決して諦めない強い気持ちをもって頑張りました。
A2 安曇野市を離れてみて、改めて北アルプスの山々や雄大な自然が素晴らしいと思いました。これからもこの豊かな地を大切に守ってほしいです。安曇野市に卓球で恩返しができるように、大学に行って卓球を続けて頑張りたいと思います。

Special Interview

バレーボール
わにかわ
鱈川 怜児 さん

●**プロフィール** 平成8年10月生。三郷出身。12歳の時三郷クラブでバレーボールを始める。三郷中学校在学中に長野県選抜に選出。松本蟻ヶ崎高校、信州大学卒。現在はVリーグ DIVISION II 長野ガロンス所属。2019/20シーズンにて DIVISION II MEN の個人賞の一つであるブロック賞受賞。



A1 私自身は才能あふれる人間ではありませんでした。困難にぶつかった時は、ただその時の自分を見つめ直し、自分に何ができるのか、何が足りないのかを考えます。そして、足りないものを身につけるためにどれだけ時間がかかっても構わないという気持ちで取り組み、周囲の方々のアドバイスや助けを借りながら、なんとか困難を乗り越えてきました。

A2 安曇野市の自然豊かなところが好きです。自分自身が学校帰りに山や川で遊ぶなど自然の中で育ってきたので、その魅力が伝わればいいなと思います。個人的に子どもを育てるのにとっても向いているまちだと感じます。自然の中で育った活発な子どもがスポーツなどに組み込んで、健康なまちとして盛り上がっていったらとても嬉しいです。

A1 良い結果が出ない時期が続いたことがありますが、練習の積み重ねが大会での結果につながると考え、トレーニングに手を抜かず、目標を達成するためだと強く思いながら、練習に取り組みました。

A2 自然の風景が広がっていて、疲れていたり、忙しかったりするときに景色を眺めると、自然と心が落ち着くところが良いところです。これからもこの素晴らしい風景を保ち、魅力のある安曇野市であってほしいです。



絵本作家
まるやま あやこ さん



●**プロフィール** 昭和57年5月生。穂高出身。9歳から油絵を習う。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒。平成19年に絵本作家デビュー。第13回新風舎絵本大賞で大賞受賞。主な絵本に「ひとりでおとまり」（福音館書店）など

A1 一冊の絵本を作るには何年もかかり、お話が書けず悩む時もありますが、散歩をしたり家族と美味しいご飯を食べると元気が湧いてきます。いま出来ることを頑張ろうと思えます。

A2 安曇野は田んぼや水路など、人々が作ってきた暮らしの風景と自然とがバランス良く調和したとても美しいまちだと思います。この風景を未来の子どもたちにも残してあげたいです。



まるやまさん作
安曇野市図書館キャラクター「ぼぼん」

陸上競技 短距離
かなと
落合 華七斗 さん

●**プロフィール** 平成16年4月生。堀金出身。堀金中学校陸上競技部を経て、現在は佐久長聖高校に在学。令和元年、全中陸上200m5位。ジュニアオリンピック200m2位。



A1 目標を見失わず、練習を積み重ねることを意識しています。

A2 安曇野の好きなところは、自然豊かでのんびり静かなところ。大人になっても安心して住み続けられるまちであってほしいです。

スノーボード・アルペン
りほ
滝澤 俐歩 さん

●**プロフィール** 平成18年1月生。穂高出身。穂高東中学校在学。4歳からスノーボードをはじめ、10歳から本格的に競技へ。中学1年時からJSBA全日本選手権大会ユースの部にSL・GSの2種目で出場。現在は長野県スキー連盟強化指定選手

キラリ☆安曇野人 スペシャルインタビュー

打楽器奏者
竹内 一恵 さん



A1 私は思い通りにいかないと感情的になりやすいところがあるので、深呼吸をするなど一旦気持ちを落ち着かせて、困難になってしまった原因を究明しています。

A2 安曇野市はどこへ行っても時間がゆっくり流れていると感じられるところが好きです。地域活性化のために商店街に賑わいがあるまちになってほしいと思います。



●**プロフィール** 平成9年5月生。豊科出身。豊科高校、国立音楽大学を卒業。現在は同大学ディプロマコース在籍。第23回「長江杯」国際音楽コンクールにて一般部門第1位および審査委員長賞を受賞。

マウンテンバイク
小林 あかり さん



●**プロフィール** 平成13年4月生。穂高出身。平成30年MTBクロスカントリーの全日本ジュニア優勝。現在は信州大学に在学。昨年から練習拠点をスイスへ移し、各国トップ選手とトレーニングに励む。母は五輪出場者の小林可奈子さん。

A1 これを乗り越えれば必ず違う自分がある、強くなっている自分があると信じて、前へ進むことだけを考えました。

A2 身近に自然を感じることができ、四季を楽しむことができる安曇野市。そして何よりも安曇野市は自転車の練習をするのに最高の場所です。すぐに山へ行くこともでき、平地を走るときは北アルプスを見ながら走ることができます。私はそんな安曇野市が大好きです。そしてもっと多くの人に安曇野のすばらしさに気づいてもらい、さらにはサイクリングで安曇野の自然を肌で感じてほしいです。



陸上競技 ハードル
かな
小林 柑南 さん

●**プロフィール** 平成17年5月生。三郷出身。三郷中学校陸上競技部所属。令和元年、ハードル(100m)で全中陸上に出場。

A1 中2の県大会前にケガをして思うように走れず、全国の標準を切りたかったけれど、切れなかったときに困難でした。私はとても負けず嫌いで、今までもいろいろな場面で負けられないために必死に挑戦してきました。この困難においても、悔しさから必死に食らいついて全中をつかみました。「負けたくない」という気持ちで乗り越えたと思っています。

A2 この安曇野市が誕生したのと同じ年に私も生まれました。私は、山がきれい災害が少なく、住みやすい安曇野市が好きです。これから、まだまだ自然が美しく住みやすいまちであってほしいです。また、人との関わりが良く、心の温かい人がもっと多くなってほしいです。

A1 難があることは有難いこと。困難を乗り越えた後の自分にはきっと自信を持てるし、乗り越えた先で出会う光景を日本のみんなに届けようという気持ちを持つようにしています。

A2 私が思う安曇野の魅力は、やはり水と空です。大きな川から取水した清冽な流れがまちの中を流れ、田畑を潤し、また川に戻る。そして日本海へと流れていく。広い空と水の流れを眺めている時間が一番の癒しです。



写真家
だいし
佐藤大史 さん

●**プロフィール** 昭和60年5月生。東京都町田市出身。三郷在住。日本大学芸術学部卒業後、写真家・白川義員氏の助手を務める。独立後、悠久の時の流れを伝えるため手つかずの大自然に挑んでいる。エプソンフォトグランプリ2017三好好義賞受賞。



地域おこし 協力隊員が見る 安曇野

少子高齢化による人口減少は、地方にとっても大きな問題といえます。市の人口も減少を続けており（右表参照）、本年3月に策定した市人口ビジョンでは、2040年時点の人口は80,303人に、また65歳以上の老年人口の割合も増加の一途をたどる見通しとなっています。人口減少に伴う地域社会の担い手不足や地域経済の縮小は、結果として地域の魅力や活力が損なわれることにつながりかねません。安曇野市の地域おこし協力隊として活躍する3人に地域外からの視点で、安曇野について語ってもらいました。

地域おこし協力隊として、安曇野へ

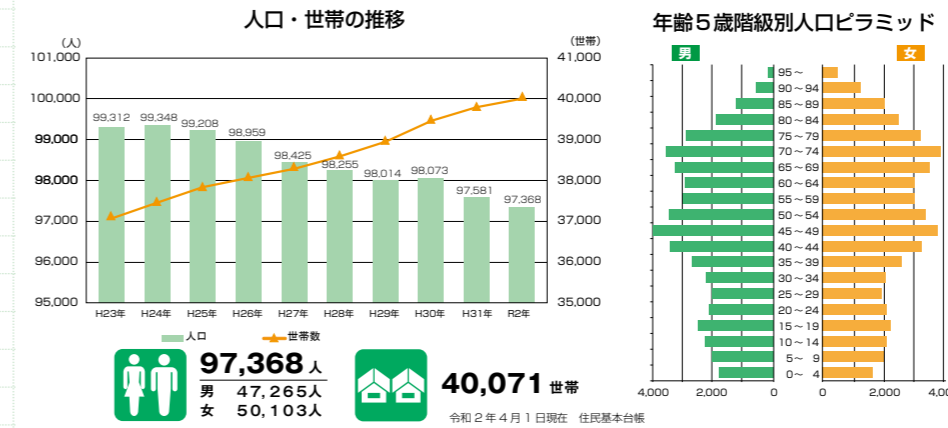
北村 観光交流促進課で、観光交流人口を増やすこと、安曇野のブランドづくりを担当しています。県外から観光やレジャーで訪れる人をさらに増やす、ある一定の年齢層だけではなく若い人たちにも安曇野を知ってもらえるようにいろいろと挑戦しています。何かその土地でやろうとすると、さまざまな関わりが増えていきます。皆さんの中に入れて入るほど、周りの人の協力や地元の理解を得ながら進めることが事業の継続にとって大切だと感じています。安曇野でしかできないこと、この土地で生まれ、皆さんが長い間守ってきた数多くの素材を上手く活用できるよう、地域の皆さんと同じ方向性を持ってPRしていきたいと考えています。

土屋 私は市区長会の事務局として、地域コミュニティの支援をしています。やはり高齢化は大きな課題だと感じています。定年延長を受け、地域活動に参加する年齢も上がっています。若い世代の皆さんも、働き盛りで時間に余裕がないせい、どうしても地域活動への関心が薄くなってしまいます。区のような出来上がった組織、ベテランの方々の中に一人で入っていくのはとても勇気のいることです。双方に十分な理解を持ち、誰でも受け入れられるような安曇野市であってほしいです。また、自分たちで地域を守る、地域をつくるという感覚が薄れ、それは行政がつくるもの…と思っている人が増えている印象があります。一方、安曇野への想い、地域愛みたいなものを多くの皆さんから感じます。

長谷川 私は、主に農家民宿を担当しています。安曇野の農家民宿は、中学校、高校などの教育旅行としての需要がとても高く、年々予約が増えている状況です。学生の皆さんに農家民宿での交流を通して、少しでも安曇野の魅力を感じて帰ってもらえるよう、受け入れ農家さんたちとの橋渡し役として頑張っています。今は、農家さんにやりがいを感じてもらいながら、安曇野の良さや魅力を伝えることが課題です。また、事業の目的の一つとして、交流人口増、そして何十年後に安曇野に移住してもらえば、という狙いもあります。すぐ成果が見えるものではないので、未来への投資みたいなものですが…。今後は、教育旅行をメインにしながら、ゆくゆくは移住定住のお試しであったり、観光客などの一般の方々向けのツアーにもチャレンジできたらいいなと考えています。

安曇野で暮らすことを選んでもらうために

北村 安曇野は半分都会で半分田舎みたいところがあって、非常に住みやすいと思います。山だったり水が綺麗だったり、安曇野に来たいと思う人は多くいると思うけど、移住の一番の問題はやっぱり仕事。外から来た人間は何も持たずに飛び込んで来て、土地やら家やら人間関係やら…、イチから築かなきゃなりません。その点、生活圏として車や電車を利用して30分位で、お隣の松本市に行けるというのは、人を呼び寄せるには最適な地の利じゃないかなって思います。



新しい風が入ることは、
地域が発展する可能性を持つ



土屋 陽子さん
(地域づくり課)

東京都の企業で16年ほど働き、高齢になる両親の近くに寄り住みたいと検討する中で協力隊の募集を知り、平成30年6月に着任。辰野町出身。



長谷川 愛さん
(農政課)

大学進学を機に名古屋市で8年間暮らしたが、都市と農村の交流に興味を持ち、平成30年4月に協力隊に着任。茅野市出身。

「安曇野」の響きだけではなく、豊かな暮らしぶりを発信したい



地域おこし協力隊とは…

地方への人の流れを創ることを目的に、都市部の人材を新たな地域づくりの担い手として受け入れる制度。地域協力活動を実践し、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図ります。

安曇野ファンを増やし、持続可能なまちづくりを



安曇野市長
宮澤 宗弘

市においても、少子高齢化による人口減少は避けられず、大変大きな課題といえます。人口減少は、地域経済の縮小を呼び、さらに人口減少を加速させるという負のスパイラルに陥ってしまうという指摘がなされています。具体的には、事業継承の問題、耕作放棄地の増加、子育てサービスの縮小や社会保障費の増加、福祉・医療の担い手不足、空き家問題などさまざまな影響が懸念されています。

安曇野市が持続可能な自治体として成り立つためには、「関係人口の拡大」が重要となります。関係人口とは、市と何らかの関わりを持っていただく人たちのことです。農家民宿や観光などさまざまな切り口から関係人口を増やす取り組みを行うことで、より安曇野ファンを増やし、将来的な移住・定住につなげ、地域づくりの担い手の一員になっていただくことが期待されます。

安曇野が少しでも良いまちになるためには、ここに暮らす私たちも意識を変えていかなくてはなりません。市民の皆さまには、市の取り巻く状況を踏まえ、共に課題を乗り越え、心豊かで活力のあるまちづくりに一緒に取り組んでまいりましょう。

信州人はシャイと言われるかもしれませんが、もっと安曇野自慢をしてほしい



北村 昌之さん
(観光交流促進課)

名古屋市の旅行会社に15年ほど勤めながら、休日には南ア・八ヶ岳・北ア登山に訪れる山好き。いつかは山の近くに住みたいと計画し、平成31年4月に協力隊に着任。ナニワ生まれのハマ育ち。



未来を灯す 安曇野花火

8月14日の午後7時30分。

例年とは違う祈りを込めた「安曇野花火」が
密集を避け、市内3カ所から打ち上げられました。

合併から間もなくスタートしたこのイベント。

「安曇野はひとつ」を合言葉に、市民の心意気が輝いています。

市発足から15年。

新しい時代の扉を皆さまとともに開きます。

編集・発行 安曇野市 政策部 秘書広報課



〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地

TEL 0263-71-2000 Fax 0263-71-5000

令和2年10月4日発行